

講評

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、今年度も本会の実施する全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクールに全国の小・中学生の皆さんから1, 803作品の応募をいただきました。改めて、応募いただいた児童・生徒の皆さん、ご指導いただいた先生方、地方会関係者の皆様、そして審査にあたっていただいた委員の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

今年度は、昨年より多くの作品をお寄せいただきました。そのどれもが、個性的で感性豊かな作品ばかりでした。私は作品を読ませていただきながら、改めて障がいの意味や価値について考える機会となりました。

もう三十年以上前のことになりましたが、ある講演会に参加しました。

福島県にある肢体不自由児施設の施設長で、湊治郎先生というお医者さんの講演でした。その中で先生は、聖書の一説を引用され、次のように話されました。

ある時、神様が盲人の人と出会います。その時、お弟子さんが尋ねます。「あの人が目が見えないのは、先祖が悪いことをしたためですか。それとも本人が悪いことをしたためですか。」その問いに神様は、「ご本人が悪いことをしたためではなく、先祖が悪いことをしたためでもない。」「障がいはその人が最高の人生を送るための神様からのプレゼントである。」と話されました。

2, 000年以上も前のことですが、現在でも障がいのある人への多くの偏見や差別がある中で、障がいに対する本当の意味を表していると思います。

障がいに対する理解を広げ、社会をやさしく変えるために、これからもこの作文コンクールに継続して取り組んでまいります。

公益財団法人日本知的障害者福祉協会

会長 井上 博